

# 看護小規模多機能型居宅介護 実際の事例



# 看護小規模多機能型居宅介護 4つの機能

機能  
1

退院直後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援

機能  
2

家族へのレスパイトケア、相談対応による不安の軽減

機能  
3

機能回復による在宅のサービスへの移行の支援

機能  
4

癌末期の看取り期、病状不安定期における在宅生活の継続支援

## 看護小規模多機能型居宅介護の実例①

### 概要 要介護2（70代男性）A様の場合

#### 【現病・既往】

食道腺癌（胃瘻）・多発肝転移（未告知）・気胸（在宅酸素1L）

#### 【利用経緯】

在宅独居、生活保護受給。外来にて化学療法を実施していたが、6月、労作時の呼吸苦あり受診、気胸の診断で入院。退院後はHOT導入となる。入院前担当していた居宅介護支援事業所CMより医療依存度が高まってきたことを考慮し、さくらすにケース紹介、退院後よりサービス利用となる。

食道腺癌末期の状態にあり、健康状態の把握と疼痛管理のニーズが高い。化学療法は副作用に伴う苦痛が大きく実施しないこととなる。短期間での状態の変化が大きく、迅速かつ柔軟な対応が望まれる看取りを前提とした事例。

# 《退院直後の週間サービス》

		月	火	水	木	金	土	日	
早朝	6:00								
	7:00								
朝食時	8:00								
	9:00					訪問介護			
	10:00		訪問看護			通いサービス			
昼食時	11:00								
	12:00								
	13:00								
午後	14:00	訪問介護	往診		訪問介護				
	15:00								
	16:00								
夕食時	17:00					訪問介護			
	18:00								
就寝時	19:00								
	20:00								
	~5:00								

利用開始当初、ADLは概ね自立しており、痛みの訴えもほぼ聞かれない。利用ニーズは身体の保清と家事援助、買い物代行がメイン。往診と訪看で健康状態のチェックを رفتつつ、在宅生活の継続を支援するプランで介入を始める。

特殊寝台・付属品貸与

## このプランでご利用いただいた場合の費用（1割負担・月当たり）

- ①看多機さくらす基本料金（要介護2） 17,562円
- ②実費：通いを週1回、月4回利用時の食事代等 約2,800円（※胃ろうの為、実際は0円）
- ③訪問看護（医療保険）週1回、月4回利用 約4,500円  
※癌末期の為、訪看は医療保険による算定
- ④訪問診療 月2回利用 約8,000円
- ⑤福祉用具貸与 ベッド・付属品 約1,000円

合計 33,862円

# 《2週間後の週間サービス》

		月	火	水	木	金	土	日
早朝	6:00					特殊寝台・付属品貸与		
	7:00							
朝食時	8:00							
	9:00			訪問看護				訪問看護
昼食時	10:00	通いサービス	通いサービス		通いサービス	通いサービス	通いサービス	
	11:00							
	12:00			訪問介護				
午後	13:00							
	14:00							
	15:00			訪問看護				訪問看護
夕食時	16:00							
	17:00	訪問介護			訪問介護	訪問介護		
就寝時	18:00	往診						
	19:00		胃瘻手技が不安定、水分・栄養不足が目立ち、倦怠感を訴えることが増えてくる。薬剤の管理も不十分。胃ろう、投薬のタイミングにサービス介入できるようプラン変更。					
	20:00							
~5:00								

## このプランでご利用いただいた場合の費用（1割負担・月当たり）


- ①看多機さくらす基本料金（要介護2） 17,562円
- ②実費：通いを週5回、月20回利用時の食事代等 約14,000円（※胃ろうの為、実際は0円）
- ③訪問看護（交通費・土日訪問実費）週4回、月16回利用 16,800円  
※癌末期の為、訪看は医療保険による算定
- ④訪問診療 月4回利用（在宅がん医療総合診療適用） 8,000円（自己負担限度額適用後）
- ⑤福祉用具貸与 ベッド・付属品 約1,000円

合計 57,362円

# 《3週間後の週間サービス》

		月	火	水	木	金	土	日	
早朝	6:00	特殊寝台・付属品・床ずれ防止用具貸与							
	7:00								
朝食時	8:00								
	9:00								
昼食時	10:00	通いサービス	通いサービス	通いサービス	通いサービス	通いサービス	通いサービス	通いサービス	
	11:00								
	12:00								
午後	13:00	通いサービスの為、自宅に迎えに行くと吐血、倦怠感、胸部痛の訴えが強く歩行もままならない状態。癌末期症状が強く、常に状態観察が必要なことより継続的な泊りサービスにプラン変更。 本人、遠方の親族も入院は望んでおらず、往診医の指示のもと、疼痛管理を継続、看取りを前提としたケアに移行。							
	14:00								
	15:00								
夕食時	16:00								
	17:00								
就寝時	18:00	泊りサービス	泊りサービス	泊りサービス	泊りサービス	泊りサービス	泊りサービス	泊りサービス	
	19:00								
	20:00								
	~5:00								



 このプランでご利用いただいた場合の費用（1割負担・月当たり）

①看多機さくらす基本料金（要介護2） 17,562円

②実費：宿泊費2,000円×30日 食事費1,620円×30日 108,600円

（※胃ろうの為、実際食事費は0円）

③訪問診療 月2回利用 約8,000円

④福祉用具貸与 エアマット 800円

合計 142,962円

## 現在のご様子

往診医からの指示に基づく、麻薬の使用により疼痛は管理されている。

麻薬の使用に伴う悪心や胸部不快、疾病に対する不安感の表出に対しては鎮静作用のある坐剤の使用によりコントロールしている。また、経管栄養は中止し点滴による補液を実施している。

眠っている時間は徐々に長くなっているが、苦痛の軽減を第一に考えたプランの実施により、精神的に不安定な状態が改善され、穏やかに過ごすことができている。

看取り期にあるが、気分的な爽快感が得られることを目的として看護師見守りのもと、機械浴による入浴も実施している。

本事例は看護機能を生かした看取りと状態に応じた柔軟かつ迅速なプラン変更という看多機の特徴が生かされた事例である。

## 看護小規模多機能型居宅介護の実例②

概要 要介護4（80代男性）B様の場合

### 【現病・既往】

慢性閉塞性肺疾患 肺気腫 間質性肺炎 （在宅酸素8L）

### 【利用経緯】

T市総合病院に上記疾患で通院中。在宅酸素8Lと医療依存度が高く、町内居宅介護支援事業所からの紹介によりサービス利用となる。

ご本人は疾患に伴う呼吸苦に加え、頻回なトイレの訴え、認知症に伴う暴言や幻覚などの症状も見られる。在宅では妻が主介護者だが、妻自身も心疾患を患い介護負担が大きい。在宅酸素8Lは他事業所でサービス利用を断られることも多い。

重度の呼吸器疾患を抱える利用者のサービス利用に伴う身体的負荷に配慮しながら、介護者のレスパイトを実践中の事例。

# 《現在の週間サービス》

1		月	火	水	木	金	土	日
早朝	6:00						泊りサービス	
	7:00	特殊寝台・付属品貸与						
朝食時	8:00							
	9:00							
昼食時	10:00	通いサービス	訪問看護	通いサービス	通いサービス	泊りサービス		通いサービス
	11:00							
	12:00							
午後	13:00							
	14:00		往診					
	15:00							
夕食時	16:00	本人は自宅より出たがらないが、妻のレスパイトを目的に通い、泊りを中心にプランを作成。サービス開始3週間経過し本人もさくらす来所、宿泊に大分慣れた様子がうかがえる。						
	17:00							
就寝時	18:00							
	19:00							
	20:00							
	~5:00							

👉 このプランでご利用いただいた場合の費用（1割負担・月当たり）

①看多機さくらす基本料金（要介護4） 27,999円

②実費：通いを週4回、泊りを週1回利用時の食事費、宿泊費等 約17,712円

③訪問診療 月2回利用 約8,000円

④福祉用具貸与 ベッド・付属品 約1,000円

合計 54,711円

## 現在のご様子

妻のレスパイトを図る上では通い、泊りサービスの組み合わせが欠かせないが、ご本人の身体的負担を軽減するために酸素圧縮装置（7L機×2台：8L設定）を設置し、いつでも体を休めることのできる居室を用意。嫌がることはせず、頻回なトイレへの訴えにも都度、対応することでサービス利用に対する拒否はなくなり、むしろ、さくらすへの来所を楽しみにしていただけられるようになってきた。

在宅での療養生活の支援に当たっては週1回訪問看護を派遣し、家族に対する生活指導を行うとともに、セカンドオピニオンとしてホームオンクリニックつくば（往診医）をご利用いただき、24時間体制で緊急時にも対応できる支援体制を整えている。

在宅生活の継続と介護者のレスパイトケアを両立するという看多機の特徴を生かした事例である。

## 看護小規模多機能型居宅介護の実例③

概要 要介護3（70代男性）C様の場合

### 【現病・既往】

高次脳機能障害 肺塞栓症による心肺停止蘇生後 陳旧性脳出血 症候性てんかん

### 【利用経緯】

自宅にて急に倒れ、心肺停止状態となり救急搬送される。蘇生後経過観察の為、入院。心電図変化、胸部症状なく退院の運びとなる。病院からは療養型や施設等への転院をすすめられるも往診や訪問看護を受けながら在宅での生活を続けたいとの妻の意向より、入院前に担当していた居宅介護支援事業所CMの紹介によりサービス利用開始となる。長期入院に伴う廃用性の機能低下が著しく、日常生活全般に介助が必要な状態。妻と2人暮らしで今後、総合病院への通院や延命等は一切希望せず、在宅での看取りを強く希望している。

# 《現在の週間サービス》

1		月	火	水	木	金	土	日	
早朝	6:00								
	7:00			特殊寝台・付属品・車いす・スロープ貸与					
朝食時	8:00								
	9:00								
昼食時	10:00	往診		通いサービス	訪問看護	通いサービス			
	11:00								
	12:00								
午後	13:00								
	14:00								
	15:00								
夕食時	16:00								
	17:00	在宅での入浴に不安があり、通いサービスを利用して入浴。							
就寝時	18:00	往診（1回/2週）、訪問看護を毎週利用し健康状態の確認と生活指導を実施。							
	19:00								
	20:00								
	~5:00								



 このプランでご利用いただいた場合の費用（1割負担・月当たり）

①看多機さくらす基本料金（要介護3） 24,687円

②実費：通いを週2回利用時の食事費 5600円

③訪問診療 月2回利用 約8,000円

④福祉用具貸与 ベッド・付属品・スロープ・車いす 約2,100円

合計 40,387円

## 現在のご様子

サービス利用開始当初は廃用性の機能低下が著しく起居動作、歩行など介助が必要な状態であったが、在宅生活の継続を念頭に通りサービス利用の際は入浴のみならず、歩行練習も積極的に行い、機能回復を図っている。現在、さくらす来所中は車椅子を使用せずに移動することができており、居宅内においても自由度が上がっている。

療養生活の支援に当たっては週1回訪問看護を派遣し、相談・助言を行っている。また、ホームオンクリニックつくば（往診医）をご利用いただき、24時間体制で緊急時にも対応できる支援体制を整えている。

機能回復による在宅生活移行の支援という看多機の機能を生かして支援を行っている事例である。